

解答・解説

問1 商人にしつこくからかわれた女の怒りを抑えた発言のニュアンスを、助動詞の知識をもとに正確に掴む。

「いたく」…形容詞「いたし」の連用形。「ひどく、激しく」の意。連用修飾語としての用法が定着しているので副詞とする考え方もある。

「れ」…受身の助動詞「る」の連用形。

「なん」…強意の助動詞「ぬ」未然形＋推量の助動詞「む(ん)」の終止形で「きっと・必ず」に違いない」と訳す
確述用法。

▶選択肢判定チェック▶

よって、正解はエ。

- ア その顔が痛くなるくらい打ってしまおうぞ。
「いたく」は程度を表す言葉。「痛し」ではない。(X)
- イ その顔が必ず痛くなるほど打たれるだろうか。
「いたく」は程度を表す形容詞で「打つ」を修飾する。「れ」は尊敬ではなく、受身。(X)
- ウ その顔がひどくなるまで打ちなされるだろうよ。
受身・確述用法の訳出ができていない。(O)
- エ その顔をきつとひどく打たれるに違いない。

問2 人物の呼び名の変化に注意して、「主語―述語」を確認しながら読み、選択肢の文言と比較して正誤を判断する。

- 起 船で通りかかった商人が、力持ちの女を馬鹿にする。
転 女が商人に「人を馬鹿にする者は顔を打たれるぞ」と言うと、商人は女を殴りつける。
承 女は、商人が非礼で、理由もなく人を馬鹿にするからだと言って、商人の船を沈めたり、陸に引き上げたりする。
結 商人が自己の行いを反省し、女に謝ると、女は商人を許してやった。

▶選択肢判定チェック▶

よって、正解はウ。

- ア 女は、商人の船がそばを通りかかったとき、商人をからかった。
船が通りかかったとき、からかったのは商人である。(X)
- イ 女は、理由もなく商人にからかわれたので、怒って水の中に飛びこんだ。
女は商人の船を沈めたが、それは「礼なきがゆゑ」であり、商人が非を認めると許してやった。(O)
- ウ 女は、力があるだけではなく、道理をわきまえた人物だった。
女が船を引き上げたのは懲らしめるためで、商人が反省する前である。(X)
- エ 女は、商人が反省の色を見せたので、船を陸に引き上げてやった。

古文の世界

人物の呼び名

古文の文章の特徴として、人物の呼び名が一定していないということがある。それほど長い文章とは言えないこの問題の本文でも「女」は「妻・女」の二通り、「商人」は「商人・船主・船の主」の三通りで表記されている。『枕草子』や『源氏物語』など、貴族が登場する場合は、同一人物が位や役職、あるいは住まいに由来する呼び名など、異なる名前で書かれている。常に主語（誰が）と述語（どうした）を確認して読み進めることが大切だ。

出典
今昔物語集
説話集。平安

時代末期成立。編者未詳。全三十一巻。現存最大の説話集。中国・インド・本朝（＝日本）の説話の三部構成。本朝説話は貴族・僧侶・武士・庶民といったあらゆる階層の人間、さらに妖怪まで登場し、興味深い話が展開される。

4 復習 「今昔物語集」

解答・解説

文法Q 省略Q 解答と品詞分解・現代語訳

妻、もとの郷の草津川といふ川の津に行きて衣を洗ふときに、商人、船に草を積み、その船に乗り妻は、故郷の草津川という川の船着き場に行つて洗濯をしているときに、商人が、船に草を積み、その船に乗つて

て過ぐとて、これを嘲りてすこぶる煩はす。女、しばらくもの言はず。船の主、なほいひ懸くるに、女(前)を通り過ぎながら、これをからかつてひどく思い悩ませる。女は、しばらくの間黙つて(相手にしないで)いる。

女(妻)を

助動詞 強意・未然形

のいはく、「人を犯さんとせむ者はしや面いたく打たれなん」と。船主、これを聞いて船をとどめて女を「人を馬鹿にしよつとするような者はその顔をきつとひどく打たれるに違いない」と。船主は、これを聞いて船を(その場に)留めて女を

打つ。女、これを咎めずして、船の半らの方を打つ。船の方より水に入りぬ。船主、津のほとりの人を殴りつけた。女は、これ(船主自身)を責めなかつたが、船の片方をたたいた。船尾の方から水に沈んだ。船主は、船着き場の近くの人を

完了・終止形

船は

雇ひて船のものを取り上げて、また船に乗る。そのとき女のいはく、「礼なきがゆゑに船を引き据ゑつ。雇つて船のもの(積み荷)を取り上げて、再び船に乗つた。そのとき女が言うには、[無礼を働いたから船を引き上げてしまつて]」

何のゆゑに諸々の人、我を凌じ蔑るぞ」と言ひて、女、船の荷乗せたるものを、また一町ばかりの程引、どういふ理由で多くの人が、私をたたいて馬鹿にするのか」と言つて、女は、(沈んだ)船の荷を載せた船を、再び一町(約二〇メートル)ほど

完了・連体形

完了・終止形

き上げて据ゑつ。そのときに、船の主、女に向かひてひざまづきていはく、「我、大に犯せり。理なり」。(陸に)引つ張り上げて置いた。そのときに、船の主が、女に向かつてひざまずいて言つには、[私は、本当に悪いことをした。(怒るのは)もっともである](と謝つた)。

完了・終止形

助動詞 過去・終止形

しかれば女、許してけり。だから女は、(船主を)許してやつた。

単語Q 解答

- ア ひどく。随分。
イ 依然として。それでもやはり。
エ もっともである。
ウ はなはだしい。激しい。ひどい。